

奈弓連だより

通巻 184号

平成 29 年 6 月号

発行 奈良県弓道連盟

会長 西中 正

編集担当 土谷尚敬 野尻賢司

第1回伝達講習会を称号者対象に開催

6月4日(日)、奈良市弓道場において今年度の第1回伝達講習会(兼公認資格認定制度地方委員資格認定講習会)が開催されました。講師は吉本(清巳)、野尻、平木、藤岡、綿松、長濱の先生方で、受講生を含めて41名の称号受有者が参加しました。

午前中は「審査委員・審判委員・講師公認資格認定規定」をはじめ、「審査規定」「弓道競技規則」などの座学研修が行われ、午後からは一つの射礼の研修が二班に分かれて行われました。一つの射礼研修では、受講生それぞれが「演武者」と道場内において直接指導する「講師」、そしてシートに気づいた指摘事項を記入する「評価者」に分かれて進められ、公認資格認定の検定試験(一手行射)で全日程を終えました。

私個人の感想ですが、単にシートに記載する評価者ではなく、実際に声に出して指導する「講師」役の方が、タイミングや伝える相手の状況を理解するのに気を遣う点で難しかったように思います。思っているだけでなく、それを効果的に演武者へと伝える「指導」について研究することの重要性を改めて感じました。



伝達講習会での座学研修

伝達事項として指導いただいた主な内容は次のとおりです。

- ・ 定め座で方向を変える際、脇正面へ出す1歩は少し大きめに出す。小さいと腰で回っても扇型に足が揃うことになってしまう。
- ・ 元禄回りは2足で90度方向に曲がる。被せ足をしない。
- ・ 一つの射礼では、本座で前の射手の背中が見えるまで下がる。落ちは斜めに下がるので多めに下がるくらいの気持ちで。
- ・ 正坐から立つ時は、腰を伸ばしつつ片足のつま先を立てる
- ・ 男性は肌入れの後、弓と弦の間に袖が入るように修練する。末弭が常に体の中心にあるように意識

して方向を変える気持ちで。(指導部 大西洋亮)

国民体育大会・奈良県代表の最終選考会

5月28日(日)に橿原公苑弓道場・庭球場において第72回国民体育大会(えひめ国体)の最終選考会が開催され、次の選手が選ばれました。選手たちは7月に開催される近畿ブロック大会に出場します。

成年の部:

成年男子

監督 奥戸由美(郡山)

コーチ 中井達男(奈良)

選手 奥田章人 今西達也 新子修平
(補欠) 原田祐介 檜尾涼

成年女子

監督 白井礼子(錬弓会)

コーチ 松澤和実(奈良)

選手 林 秀子 土谷ひろみ 長濱有美
(補欠) 揚田よう子 前川なつき

少年の部:

今年は、成年と同時に行ったため、いつもの高校生の試合とは違う雰囲気の中、選手たちは緊張した面持ちで試合に望みました。4月に行われた県高校弓道選手権大会で選考された男女18名の選手が出場。午前中近的12射、午後遠的12射を引き、射技・体配・的中など総合的に優れた次の選手10名を選考しました。

女子選手

浦崎聡美(平城高校) 西 翠(高田商業高校)
坂本夢菜(榛生昇陽高校) 藤野沙羅(奈良北高校)
丸尾逸稀(西の京高校)

男子選手

福本恭矢(畝傍高校) 松倉斗希也(奈良工業高等専門学校)
中村 陸(平城高校)
西田友樹(橿原高校) 芳仲貴久(西の京高校)
(強化部 矢野有悟)(高体連 藤村佳照)

近畿地区指導者講習会

全弓連 29 年度指導方針の徹底を目指す

5月20日~5月21日に平成29年度近畿地区指導者講習会が和歌山県田辺市弓道場にて石川武夫範士九段を主任講師、正法地清範士八段を講師に迎え開催されました。近畿2府4県から6名ずつの計36名の受講生が参加しました。

今年は、全弓連からの新しい伝達事項や変更はな

く、昨年度と同じ指導方針—弓道教本及び副読本に基づいた基本の徹底—をさらに徹底することでした。この内容を参照して、稽古を続けていただきたいと思えます。

今回の講習目的は「公認資格制度地方委員資格」の取得です。これを受けて各地連の伝達講習会も、同様にこの地方委員資格取得を兼ねたものとなります。

【第1日目】

石川主任講師の矢渡しで始まりました。介添への講評では以下のことが指摘されました。

- 第一介添の動作は遅くならないように。射手が待っていると思って動く。
- 介添の姿勢は、すぐに動けるように、重心は踵に置かず、やや前に置くように。
- 介添は歩幅を射手よりやや狭くして歩く。
- 肌入れについては、射手と事前に打ち合わせをしておく。(打ち合わせがない場合は、だいたい2回試みて入らなかったら、介添えをする)
- 第一介添は自分の位置に行くときも、戻るときも射手との共同作業ということ意識し、射手に意を注ぎながら動く。
- 第二介添の躊躇の位置や向きは道場の大きさを考えて決める
- 第二介添は第一介添に矢を渡すとき、一旦矢を垂直に立て、そののち水平にする。

その後、参加者全員による一手行射。講評で注意点として次の指摘がありました。

- 入退場時の国旗への正対は、腰を意識して動く。
- 退場は出口の中央で真直ぐに出る。
- ほとんどの人の手の内が堅い。そのために離れて弓がずり落ちている。
- 右肘が前で止まり、「前合わせ」になっており、小さな射となっている。弓と身体が一体となっていない。

その後講義室に移り、主任講師による共通事項講義、審判委員講義、そして審判委員試験が行われました。続いて、審査委員講義、講師講義、「平成29年度指導方針」の説明があり、1日目はほとんどが座学でした。最後に射技指導を入れていただきました。

【第2日目】

正法地講師による矢渡し後、すぐに昨日の続きの射技指導が行われました。その後、審査員資格と講師資格取得のためにグループ分けがなされ、

- ① 射手、② 控の人、③ 指導に当たる人(講師実習)
 - ④ 29年度指導方針項目に基づいて評価シートに記入する人(審査員実習)、⑤ 矢取りの人
- に分かれ一つの射礼の研修で実習しました。この実習中も先生からの指導が入り、かなり盛沢山でした。主な指摘事項は右上欄の通りです。

- 定め座など歩行中の曲がり方は、曲がる方の足を一足分くらい前に出し、腰を回し、もう一方の足を差し込んで揃える。
 - 定め座で正座から立ち上がる時、腰を切りつつ、片方の足を立てる。
 - 角を元禄に回るときは、2歩で被せ足をしないで回る。
 - 後退の1歩目は体を崩さないために小さく引く。
 - 肌入れ後、また襷を外した後、弓を左手に戻すとき、肘を張り、袂が弓と弦の間に入るようにする。
 - 一つの落は、本座で前の射手が早く目に入り、前で止まる可能性が高いので、前の射手の背中が見えるまで下がる。
 - 足踏みの角度を揃える。
 - 取り懸けは相寄って行う。肘で取り懸ける。
 - 会で、肩、肘を左右に張りながら腰を意識する。
- 最後に検定試験を行い受講者全員が合格しました。

(指導部 野尻祥枝)

健康長寿の弓道大会

個人男子:森 昌彦、個人女子:羽田幹枝 選手が優勝

5月13日(土)に榎原公苑弓道場において、60歳以上(29年4月時点)を対象に第5回健康長寿の弓道大会兼ねりんピックあきた大会奈良県代表選考会が開催されました。当日は、朝からあいにくの雨模様でしたが、過去の大会を大幅に上回る84名の弓道人が参集いたしました。年々参加者が増え、盛大になっており、うれしい限りです。

第一体育館での総合開会式ののち、弓道場にて西中会長より「県連の会員も60歳以上の割合が今後ますます高まるなかで、参加者皆さんがいつまでも健康で弓道を極められるように」との挨拶をいただきました。開会式に続いて、吉本清信名誉会長による矢渡しが行われました。

競技結果は次の通りです

団体戦

- 優勝 A チーム 17 中 (小林保彦・中山誠一郎・猪原旬子・真鍋征史・中井達男)
- 2位 R チーム 16 中 (岡本ハツ子・羽田幹枝・辻本幸司・早山和子・河合博子)
- 3位 P チーム 15 中 (片山 猛・安田生子・松田政廣・明崎静代・恒成隆一)

個人男子

- 優勝 森 昌彦 7 中 2位 徳田史郎 6 中
- 3位 佐伯一誠 6 中

個人女子

- 優勝 羽田幹枝 5 中 2位 安田生子 5 中
- 3位 上地洋子 4 中



前列:団体優勝のチーム、後列:個人戦入賞の選手達
ねんりんピックあきた大会代表チーム

競技の後、候補4チームの中より選考委員によって次の代表チームが選ばれました。ねんりんピックあきた大会は9月9日から12日まで秋田県で開催されます。

選手:小林英一 大井清源 岡本薫子
千葉健一 平木一史 (奈良支部)



ねんりんピックあきた大会
奈良県代表に選ばれた
選手達

(シニア部 西尾信行)

インターハイの県代表に、団体男子は橿原高校 女子は高田商業高校が選ばれる

平成29年度全国高等学校総合体育大会、第62回全国高等学校弓道大会および第70回近畿高等学校弓道大会の県予選会が5月4日の第1次予選通過者により、6月11日に橿原公苑弓道場において開催されました。

競技は、団体の部では5人立各自4射、計20射により、5試合(100射)を行い、順位を決定しました。また個人の部では、女子40名、男子41名により、準決勝(4射3中以上で通過)を行い、準決勝通過者、女子17名、男子16名により決勝戦を射詰めで行いました。

この結果、8月1日~4日仙台市で行われる全国高等学校総合体育大会の団体の部・県代表に男子は橿原高校、女子は高田商業高校が選ばれました。個人の部では、男子は芳仲 貴久(西の京高校)、高井 優馬(五條)、女子は西 翠(高田商業高校)、岩口 華子(平城高校)の各選手が選ばれました。また個人10位までの選手、団体4位までの高校は7月16日17日大津市で行われる第70回近畿高等学校弓道大会に出場し

ます。結果は次の通りです。

女子団体の部

- 1位 高田商業高校 4勝1敗 65中
幸田実紅・笠谷莉奈・徳久 唯
上村海晴・西 翠・元持紗雪
- 2位 平城高校 4勝1敗 63中
浦崎聡美・鈴木彩実・加井優里夏
米澤歩未・向井莉恵・上田香穂
- 3位 郡山高校 4勝1敗 62中
水内野々華・上山優希子・横前菜奈美
吉川和菜・真田愛佳・川上琴音
- 4位 西の京高校 2勝3敗 63中
丸尾逸稀・平松由莉・木村知永
澤 蛍奈・小木曾美沙・川元幸希



前列:高田商業、後列:左から郡山、平城の各チーム

男子団体の部

- 1位 橿原高校 4勝1敗 66中
西田友樹・笠井大世・西谷 永
高橋優介・堀内達也・夷 孝浩
- 2位 西の京高校 4勝1敗 64中
芳仲貴久・桐木つばさ・日高稜真
高間靖智・岡田大輝・臼井 匠
- 3位 奈良北高校 3勝2敗 58中
林 亮多・杉本凌亮・曾田悠太
本多洋希・田中大樹・松本 亮
- 4位 畝傍高校 2勝3敗 57中
石田侑也・森井陸人・野村昂希
衣川 匠・福本恭矢・辻本大暉



前列:橿原、後列:左から奈良北、西ノ京の各チーム

女子個人の部

- 1位 西 翠 (高田商業) 2位 岩口 華子 (平城)
3位 川上 琴音 (郡山) 4位 泉尾 紗香 (畝傍)
5位 上山優希子 (郡山) 6位 徳久 唯 (高田商業)
7位 渡邊 彩美 (檀原) 8位 岩井 彩華 (檀原)
9位 源 穂乃花 (法隆寺国際)



女子個人の部で入賞した選手達(右端が1位)

男子個人の部

- 1位 芳仲 貴久 (西の京) 2位 高井 優馬 (五條)
3位 松田 遼大 (郡山) 4位 鍵谷 悠喜 (榛生昇陽)
5位 石田 侑也 (畝傍) 6位 谷尾 敦史 (高田商業)
7位 夷 孝浩 (檀原) 8位 西田 友樹 (檀原)
9位 松崎 時也 (高田商業) 10位 福本 恭矢 (畝傍)



男子個人の部で入賞した選手達(右端が1位)
(高体連 藤村 佳照)

奈良県中学校弓道錬成大会

男子個人は松岡 賢選手(天理南中)、 女子個人は沼田優美香選手(大成中)が優勝

平成29年度の初めての大会、14回奈良県中学校弓道錬成大会が5月3日県立檀原弓道場において実施されました。天候もよく弓道の試合を行うには上出来の1日でした。参加人数は男子64名、女子100名でした。競技は各人8射として、その的中で個人の順位を決めました。団体は的中合計の上位4チームを選びその後トーナメント方式により団体の順位を決めました。結果は以下の通りです。

個人戦男子

- 優勝 松岡 賢 (天南) 優勝 沼田優美香 (大成)
2位 内ノ浦春貴 (大成) 2位 池田 梨瑠 (香芝)
3位 飯田 琢也 (天南) 3位 谷端 紗妃 (香芝)

個人戦女子

団体戦男子

- 優勝 天南B (飯田、森口、村田)
2位 香芝C (田原、田上、野村)

- 3位 八木A (仲川、大塚、野澤)

団体戦女子

- 優勝 香芝G (堀内、谷端、山田)
2位 八木A (長谷川、岩田、北浦)
3位 檀原A (高田、三浦、植村)

(中体連 中前芳一)

香芝市選手権大会開催

平成29年5月14日(日)香芝市立香芝中学校弓道場において「平成29年度香芝市選手権大会」が中学生(男子13名、女子24名)および一般(男子9名、女子4名)が参加して開催されました。竹村先生の矢渡しに始まり、多くの観客(中学生の保護者)が見守る中、四つ矢3回、1人12射による競技会となりました。試合中、控えに置かれた巻き藁において、中学生が一般に声を掛け、熱心に指導を受けている姿は年齢を超え同じ弓を通じて大切な交流の場となり、この試合ならではの光景でした。試合後、竹村先生の講評の中には去年に続き「基本を大切に、射法八節を丁寧に大切に引きましよう」とおっしゃられていたのがとても印象的でした。結果は次の通りです。

中学生男子の部

- 優勝 田上 終悟(3年)、2位 中埜 広翔(3年)、
3位 日吉 粹人(3年)

中学生女子の部

- 優勝 前原 宴(3年)、2位 大和田 温菜(3年)、
3位 片山 葉月(3年)

一般男子の部

- 優勝 乾 光孝、2位 田中 智、3位 岡 雅佳

一般女子の部

- 優勝 白井 礼子、2位 吉岡 瑞紀、3位 大辻 優香



前列:中学生の部入賞者、後列:一般の部入賞者

(香芝支部 牧浦)

編集|後|記

中学生からシニア世代までの大会報告が寄せられました。入賞した選手達の喜びの笑顔が素敵です。入賞したチーム・選手には人一倍の稽古があったと思います。「徹底した稽古を重ねて体に覚え込ませ、射に集中する習慣を身につけること」の大切さを故魚住一郎範士が名大弓道部誌「悟弓」第49号巻頭言に書いておられます。編集担当 野尻賢司